

H26 シカ年度 知床岬地区におけるエゾシカ捕獲事業案

表 1-1-1. 知床岬先端部における航空センサスカウント数とセンサス後の捕獲数など

シカ年度	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	
センサスカウント数	447	399	374	246	265	56	59	
センサス後捕獲数	99	72	158	57	216	32	9	
捕獲後生息数	348	327	216	189	49	24	50	-
捕獲後生息密度(/km ²)	50	47	31	27	7.0	3.4	7.1	(-) ÷ 7
翌冬推定生息数	418	392	259	227	59	29	60	(-) × 1.2

1. 経緯と方針

- ・ H25 シカ年度の捕獲終了時点の推定生息密度は、前年度の倍の 7.1 頭/km² となり、目標としていた 5 頭/km² を再び上回った。
- ・ 船捕獲のみとしたが、流氷明けが遅く捕獲適期に実施できなかったためと考えられる。

- ・ H26 シカ年度は、シカの越冬集結中に確実に捕獲可能な手法を選択。併せて、低コストで効率的に捕獲できる手法を検討。
- ・ 特に赤岩側に生息するメス成獣主体群の捕獲に重点を置く。

2. 平成26シカ年度 捕獲事業内容案 (知床岬地区)

- ・以下の A～E から 1～2 パターンを選択
- ・死体回収は、後日船により 10 名程度日帰りで実施。

A . 流水期 ヘリ捕獲 (中規模隊 日帰り) 1 回 (H23-24 シカ年度と同じパターン)

期間: 1～2 月に 1 回 (航空カウント終了後)。日帰り。
人員規模: 14 人程度
実施方法: 仕切柵を使った追い込み
特記事項 仕切柵の事前修理が必要。

A . 流水期 ヘリ捕獲 (小規模隊 3～4 泊) 1 回 (初試行パターン)

期間: 1～2 月に 1 回 (航空カウント終了後)。3～4 泊程度。
人員規模: 3 人程度
実施方法: 草原上狙撃・森林内忍び猟 (スト キング)
特記事項 航空カウントと合わせて実施し、低コスト化を図る。

B . 流水期後 船捕獲 (中規模隊 日帰り) 1 回 (H25 シカ年度と同じパターン)

期間: 4 月に 1 回。日帰り。
人員規模: 14 人程度
実施方法: 仕切り柵を使った追い込み
特記事項 流水明けが遅れれば捕獲効率は下がる。仕切柵の事前修理が必要。

B . 流水期後 船捕獲 (小規模隊 3～4 泊) 1～2 回 (初試行パターン)

期間: 4 月に 1～2 回 (流水明け後)。1 回 3～4 泊程度。
人員規模: 3 人程度
実施方法: 草原上狙撃・森林内忍び猟 (スト キング)
特記事項 流水明けが遅れれば捕獲効率は下がる。
死体回収隊は捕獲隊の復路と合わせられるか？

C . 無積雪期 船捕獲 (小規模隊 + 犬 2～3 泊) 2～3 回 (初試行パターン)

期間: 5～6 月に 2～3 回。1 回 2～3 泊程度
人員規模: 3 人程度 + 犬
実施方法: 草原上狙撃・森林内忍び猟 (スト キング)
犬による仕切り柵を利用した追い込み
特記事項 トレッカーや漁業者に対する安全対策

表 1-1-2 . 平成 26 シカ年度の知床岬地区におけるエゾシカ捕獲事業（案）

		8・9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	
			仕切り柵 補修等	時化の激しい期間			流水期			猛禽繁殖期		
実施手法	モニタリング					航空カウント1回						
	パターンA 流水期中ヘリ1回 中規模捕獲(14人程度・日帰り)						航空カウント後 日帰り ヘリ捕獲1回		死体回収約10人			
	パターンA 流水期中ヘリ1回 小規模捕獲(3人程度・3~4泊)						航空カウント後 宿泊 ヘリ捕獲1回		死体回収約10人			
	パターンB 流水期後船1回 中規模捕獲(14人程度・日帰り)							海明け後 日帰り船 捕獲1回	死体回収約10人			
	パターンB 流水期後 船 1~2回 小規模隊(3人程度・3~4泊)							海明け後 宿泊 船捕獲1-2回	死体回収約10人			
	パターンC 無積雪期 船 2~3回 小規模隊(3人程度・2~3泊)								無雪期 宿泊 船捕獲	無雪期 宿泊 船捕獲		